



飯綱山 平沢利夫 画



第2822回会報

2021年(令和3年)11月2日(晴)

THE ROTARY CLUB OF NAGANO 長野ロータリークラブ

例会/毎週火曜日 12:30~13:30 ホテル国際21

事務局/長野市県町576 Tel.026-235-5493 Fax.026-235-4146

会長/中島克文 幹事/宮澤政徳 クラブ会報・雑誌委員長/堀江三定

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

■これより桑澤一郎ガバナー・滝沢捷司ガバナー補佐・地区副幹事勅使川原一幸様のご入場されますので、皆様方、起立し拍手でお迎え下さい。退場される時も同様でお願い致します。

■司 会 : 高見澤秀茂SAA

■点 鐘 : 中島克文会長

■ソング : 「君が代」「奉仕の理想」

■ゲスト紹介 : 中島克文会長

- ・国際ロータリー第2600地区2021-2022年度ガバナー 桑澤一郎様
- ・国際ロータリー第2600地区2021-2022年度北信第一グループガバナー補佐 滝沢捷司様
- ・国際ロータリー第2600地区2021-2022年度地区副幹事 勅使川原一幸様

■会長挨拶 : 中島克文会長

会員の市川公一さん(長野信用金庫理事長)が秋の黄綬褒章を受賞されました。おめでとうございます。これからも地域の活性化にご活躍頂きたいと思えます。今月はロータリー財団月間です。個人寄付については皆様に廣田委員長からお願いに上がりますので、ぜひご協力をお願いします。

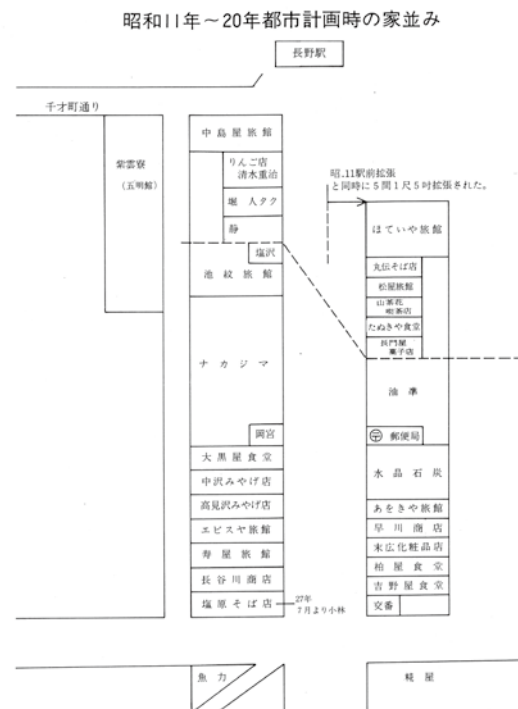
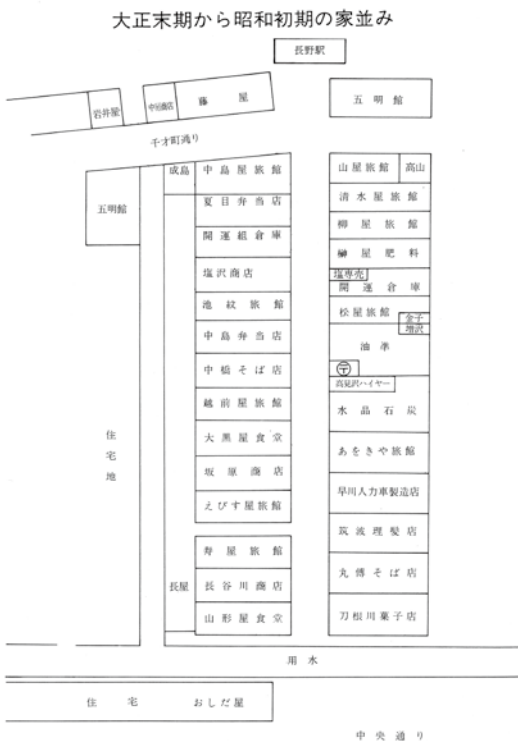
私の話に入ります。長野駅が昭和11年に仏閣型駅舎として建築された時代背景として、明治以来の古社寺保存法に代わって、昭和4年に国宝保存法が制定され、日本古来の文化財を重要視し、保護する風潮が高まっていたことがあります。明治時代に建設された長野駅を取り壊し、新たな駅舎を建設するに際し、鉄道局が神社仏閣をモデルにと勧めてきたのも、そうした時代の流れを受けてのことだと思います。ヨーロッパ各国の鉄道駅舎が、各国の伝統的な建築様式や意匠を生かした重厚な建物であることも意識していたかもしれません。長野駅舎と近い時期に建設された駅舎で、現在もその姿を見ることができる駅舎があります。鳥根県の「大社駅」は、大正13年建築、出雲大社の門前町に相応しい木造平屋建

て、瓦葺屋根の駅舎です。和風デザインのシャンデリアが30個も備え付けられた内部も趣があります。平成11年の駅廃止後は、重要文化財として保存されています。奈良県の「奈良駅」は昭和9年建築、相輪がそびえる寺院風の屋根を持ちながら、縦長の窓や壁面の彫刻など、洋風の意匠も生かした独特な和洋折衷建築で、平成15年まで現役で使われていました。役目を終えた後はそのままの姿で、奈良の観光案内所として活用されています。京都府の「二条駅」は明治37年建築、入母屋瓦葺きの大屋根が目目を引く、堂々たる和風駅舎で、京都鉄道の本社社屋も兼ねていたそうです。平成8年に駅が橋上化するに際し、役目を終えて梅小路蒸気機関車館に移設されました。現在は、京都鉄道博物館のエントランスとして、また展示施設として活用されています。東京都の「高尾駅」は昭和2年、前年に崩御された大正天皇のご葬儀に伴い、霊柩車移送のための新宿御苑仮停車場として建築されました。切妻銅葺のすっきりしたデザインの和風建築です。その後、移設された昭和36年に高尾駅となり、平成29年に解体・移設されて、今も現役駅舎として活躍しています。長野駅舎が、これらの駅舎のように保存されたらよかったとの声は今も耳にします。しかし、保存に至らなかったのは、デザインとして仏閣型ではあっても、木造建築のような伝統工法で建築されたわけではなく、また近代的な改修を繰り返していたために、文化財の対象とならなかったからだと思えます。耐震性などの性能面でも保存は難しかったのですが、せめて展示施設としてあの懐かしい意匠がどこかで生かされたなら、観光資源としても価値があったのではないかと残念に思っています。

大正から昭和初期にかけての二代目駅舎、当時の末広町の町並みと昭和11年に仏閣型駅舎が建築された当時から戦中までの末広町の町並みを示す地図がありますのでそれを見ながら聞いて下さい。仏閣型

駅舎の建設に合わせて駅前広場も末広町の通りも大幅に広げられました。それまで6間(約11m)だった末広町の通りは11間(約20m)ほどに拡幅されました。そのため、通りの北側に山荘の洋風ホテル「藤屋支店」、通りの南側にあった3階建ての洋風建築の五明館をはじめ、沿道の「山屋」「高山蕎麦店」「清水屋」「柳屋」は取り壊して、一律5間(約9m)南へ後退することを余儀なくされました。この拡幅に合わせ、街並みは大きく変わることになります。末広町は長野駅の開設に合わせてでき上がった新興の町です。ここに集まってきて店舗を設けた人達は開発の意欲に燃えており、新しい町を作ろうという情熱を持って、

地域の発展に一致協力をしていました。それ故、仏閣型駅舎の建設に伴う大規模な道路拡張や後退にも喜んで協力し、駅前広場つまり旧長野鉄道管理局の前に舞台を設け、芸能大会、納涼大会、NHKラジオの公開放送、夜店など、様々なイベントを企画開催し、力を合わせて賑わいの創出に努めました。開催にあたって、国鉄当局、長野市、長野商工会議所等の支援、後援を得るなど、今の地域イベントの原型が形作られ、またそれを自ら企画し、行動し、支えて盛り上げていく商工業者の一体感がこの時代に培われたと言えるでしょう。曾祖父の中島太郎吉、祖父の中島卯助はその音頭取りの立場に置かれた時代もあったそうで、信州の気風と団結力に富んだ末広町を深く愛し、町はいつも温かく解け合い、一つになったと記しています。その思いを父良夫や私も受け継ぎました。時代は変わっても地域の活性化や賑わいは、そこで暮らしや事業を営む人々の情熱があってこそ創出されることに変わりはないはずです。ですからこれからも新しい時代の町づくりに積極的に取り組み、地域の皆さんと手を携えていきたいと思ひます。



■新会員紹介 : 中島克文会長

・黒岩清さん(長野県信用組合理事長)

本日より皆さんのお仲間に入れさせていただきます。

今後ともどうぞよろしくお願ひします。

■幹事報告 : 宮澤政徳幹事

・ロータリーレート 1ドル=114円(11月)

■出席報告 : 伊藤令委員

・本日の出席人員 79名 無・断欠席者数 2名

・出席率 69.3% ・前々回訂正出席率 82.6%

■ニコニコBOX報告 : 石川光治委員

・中島克文会長…本日は桑澤ガバナーをお迎えしました。よろしくお願ひします。

・北信第一グループガバナー補佐 滝沢捷司さん…桑澤ガバナーをお迎えして。

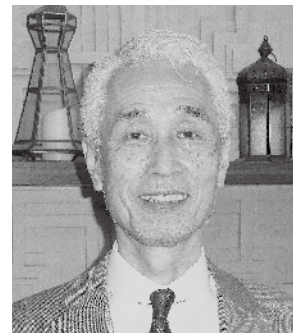
・お祝い会員…23名 ・早退ほか…1名

・お皿…40,000円

合計 200,500円 累計 1,017,500円

■桑澤一郎ガバナーのお話

長野クラブの伝統は、例会をととても大事にされていることです。これはロータリーの真髄の一つでもありますので、それをきちんと守られている、伝統と格式を重んじるクラブで、それらもちゃんと重鎮の皆さんを中心に伝統が引き継がれているのは大変素晴らしいことで、かつ羨ましく思ひます。ロータリーも色々変わってきていることはご承知の通りです。人数もどんどん減ってしまつて



おり、社会の価値に合わなくなってきている部分が、今非常に試行錯誤しています。逆に新興国、経済発展が著しいインドやアフリカ諸国では、軒並み会員が増えています。ロータリーは会員を増やすことによってプロジェクトをどんどん大きくして、より高いレベルの奉仕活動をしたいという思いで、会員増強を会長のメータさんもお話しています。今年度のテーマは「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」と、非常に分かりやすいです。英語では「Serve to change lives」で「みんなの」は日本語訳でなんとなくついていきます。なので多分メータさんの思いは、お話から察するに、人の人生を豊かにするのと同時に自分の人生も豊かにする、これもやはりロータリーの真髄だと思います。奉仕は人のために行いますが、同時に自分のためでもあることも含まれた言葉だと思います。メータ会長の方針は非常に明快で、現在120万人の会員を私の年度で10万人を全世界で増やしたいと申しています。日本でどれだけ貢献できるかは未知数ですが、インドはすごい勢いで伸びているようです。お膝元ですので、肝煎りでやっているのだと思います。それと、全世界でロータリー奉仕デーを実施・開催して下さいというお願いが出ています。これは昨年までやっていたロータリーデーとは少し違う話です。ロータリーデーはあくまでロータリーを一般の方々に知ってもらうことが中心のイベントでしたが、今年のロータリー奉仕デーは、奉仕を通じて一般社会との関わりを促していくという、一歩進んだ形のイベントです。これは日本全国、2600地区でももう盛んに行われています。ルールは2つあり、2つ以上のクラブが合同で奉仕プロジェクトを計画することと、参加者の25%以上をロータリアンでない人達を巻き込むことです。この2つを守って、ロータリー奉仕デーとして実施して頂き、マイロータリーのロータリーショーケースに報告して頂きます。もう既に何百というプロジェクトの実績が出ています。やったクラブからは非常に良かったという感想を頂いています。グループ内で色々な事業があると思いますが、奉仕活動を一緒にやることは実はなかなかないケースです。今回この機会を与えられて隣のクラブと一緒にプロジェ



クトをやってみて、非常に学ぶべきことが多かったという感想もあります。私の今年の重点目標の1つに「ビジュアルアイデンティティの強化」を掲げています。ロータリーは今まで、バッジ1つでさりげなくロータリアンであることが分かり、奉仕活動の時も普段着で活動していました。しかし、もうそういう時代ではなく、お揃いのジャンパーを着て何十人の人達が何かをやっていることを人に知らしめるだけでインパクトになります。ロータリークラブというものを世の中に知らしめる活動が、今求められています。こうした「ビジュアルアイデンティティ」をしっかりとって頂きたいと思います。実は、2つのクラブに合同で清掃作業を行って頂きました。片方のクラブは既にお揃いのポリオの赤いジャンパーを着て十数人で清掃活動を行いました。隣のもう1つのクラブは普段着で奉仕活動をしました。奉仕活動自体に差異はないので、格好ではないと昔は言われましたし、本質は奉仕活動ですから格好がどうこうではなかったのですが、普段着で参加したクラブはお揃いのジャンパーを目の当たりにして「俺達にも必要だな」とつくづく感じたそうです。これは1つの事例ですが、見る人に「あの人達、何やってるんだろう」と思わせるには、やはりアイデンティティ、見た目の特徴付けが必要です。奉仕デーを開催することは、隣のクラブの様子を見ることとしてもとてもいいことです。もう1つ、女子のエンパワーメントに取り組んで下さいという重点項目がありますが、これが出てきた背景には、新興国(特にイスラム圏)において女の子が非常に虐げられた状況にあり、ろくに教育も受けられなかったり児童法が横行していたり、果ては人身売買が行われている、これをなんとかしたいということがあります。インドではまだ女性の地位は低いので、ロータリーが取り組むべき課題として取り上げています。日本の場合は少し事情が違い、児童の貧困も問題になっていますが、特段女の子だけが虐げられているわけではありません。もちろん性的な問題があることは承知していますが、そこまでではありません。ですので、日本の場合の女性のエンパワーメントは女性全体を捉えるべきでしょう。日本は、女性議員の少なさ、企業の管理職の少なさ、そうした社会での役割の重要ポジションに女性がいないということが非常に問題になっており、先進国の中では最低レベルだと言われています。日本には日本のそうした文化がありましたから、一概に悪いことだとは肌で理解できない部分がありますが、もう時代はそうではないことははっきりしていて、政府もどんどん男女雇用均等法などで女性の社会参画を積極的に進めていく方針です。ロータリーもこれに取り組むべきです。女性が今抱えている色々な社会的な問題についても、ロータリーが解決の方向を見出してもらいたいというのが、メータ会

長の願いです。私の専用のHPで説明しています。コロナで地区協議会など対面で開催できず、皆さんにこの情報を伝えるために作りましたので、ご興味があったら見て頂ければと思います。

私の方針の「繋がりを保ち、交流と奉仕を充実させよう」は、コロナならではの標語ですが、繋がり強化をして下さいとお願いしています。コロナに負けず、ロータリアンファミリー、社会ともきちんと繋がって下さい、という意味です。それから「女性会員の増強」です。日本における女性問題は女性自身がリーダーになって解決していくべきだと思います。長野クラブにも4名の女性会員がいますので、ぜひその方達を登用して、女性が抱えている社会問題にロータリーがどう関われるかを模索して頂ければと思います。それから「積極的な広報活動とビジュアルアイデンティティの強化」です。ロータリーを社会に知らしめるために、自分達の活動を知らしめることによって仲間を増やし、奉仕プロジェクトをより大きなものにしていくことが狙いです。隠れて行うのも美德でしたが、既に時代は変わったのだと認識して頂くのも大事な点です。

私が地区の青少年奉仕委員長をやっていた時に、長野ロータリーがライラの当番でした。その時、白川さん、会長さんはじめ多くの方に大変お世話になりました。ありがとうございます。ライラも昨年はできませんでしたが、今年はなんとかやろうと、松本空港クラブに1泊2日のライラの準備をしています。また、今月28日(日)午後1時から、諏訪市のホテル紅やで、地区の職業奉仕セミナーが開催されます。阿部知事とお膝元の金子市長、東御市長、川上村元村長と、私が参加し、ファシリテーターは地区の職業奉仕委員長品田さんで、「信州のためのロータリアンの役割」というテーマでパネルディスカッションを行います。対面で行う方向ですが、いまだにコロナがどうなるか分かりませんので同時にオンラインも準備しています。このサイトから申し込めますので、ご興味のある方はぜひご参加下さい。このサイトには色々なコンテンツがありますが、オープン例会というのが結構流行っていて、入会見込み者と同時に一般の方達に例会を見せて、広報的な役割として使っているクラブもあります。今年、地区ではデジタル化をかなり進めています。コロナで仕方なく、ということもありましたが、ズーム会議も世の中では当たり前になっています。ロータリーは営利団体ではないので、対面で人と人とが交流しますし、奉仕活動はデジタルではできませんが、会合や会議の中には必ずしも集まらなくてもいいものもあります。色々なものを簡素化し、負担を減らしていく意味でデジタル化を進めています。皆さんにとって必要なのは、個人の、自分自身のデジタル化と、クラブのデジタル化です。会社でも色々デ

ジタル化されていると思いますので、それをぜひロータリーにも提供頂いて、クラブをデジタル化して事務職員や会長、幹事、委員長の皆さんの負担を減らして頂きたいと思います。デジタル化で恩恵を受けるのは、時間です。時間は確実に短縮されます。新しく生まれた時間を違うものに使ったり、余暇に使ったり、生産性を上げることが大きなメリットです。クラブも負担をなくしていくことによって更に奉仕活動を拡大したり、大変だから委員長はできないということがない状態を作っていくことが大事です。Googleのアカウントを使うことが一番手取り早くデジタル化ができます。来年の地区協議会も、コロナに関係なくオンラインが決まっています。大きなスクリーンでもよく見えなかったり分からなかったりするので、パソコンの方が情報が伝わりやすいです。目の前のパソコンの画面にガバナーや会長の顔が映り、資料も画面に大きく出で分かりやすいです。私がライブで話している雰囲気はバーチャルでは伝わりませんが、それが必要な場面とはきちんと切り分けなくてははいけません。クラブ訪問は対面で伺いますし、私を見て頂いて、私の話を直接聞いて頂くことで、今年の思いを少しでも分かって頂くことがクラブ訪問の目的で、むしろ情報より気持ちの部分です。しかし地区協議会でお伝えするのは殆ど情報ですので、コロナ後もバーチャルを取り入れ、対面と切り分けていこうと思います。

基本的に、地区はクラブのために、皆さんのためにあります。クラブが困っていることを助ける、或いはリソースを提供するのが地区の役割です。ガバナーはその助け舟の先導のようなものです。皆さんの問題を地区に上げて頂き、それを私達が解決していくスタンスです。そう肝に銘じてガバナーを務めていますので、何かありましたら遠慮なく言って下さい。地区大会は来年5月22日に延期してあります。地区大会はお祭りみたいなものなので、それをぜひ皆さんと対面で分かち合いたいと願っています。

これより桑澤ガバナー、滝沢ガバナー補佐、勅使川原地区副幹事様のご退場されますので、拍手でお見送り下さい。

